

# 営農計画策定支援システムBFM操作マニュアル

## 目次

1. 操作法の要点 1
  - 1) インストール 1
  - 2) 起動 1
  - 3) BFMのメニューの表示位置 1
  - 4) 経営指標の登録と編集 2
  - 5) 営農条件の入力 3
  - 6) 営農計画案の作成 3
  - 7) 営農条件を変更した営農計画案 5
  - 8) 営農計画案の試算 6
  - 9) 入力データと計算結果の保存 6
  - 10) 保存データの利用 6
2. メニューの詳細 7
3. 利用上の留意点 11
  - 1) 圃場利用期間(在圃期間)の指標 11
  - 2) 米の生産調整に関わる指標 11
  - 3) 助成金等の経営指標の入力 11
  - 4) 営農条件シートの転作関連項目の修正 11
  - 5) モデルの修正 11
4. 付録 13
  - 1) Excel(2003)までのメニューの表示位置 13

## 1. 操作法の要点

営農計画策定支援システムBFMは稲作経営、野菜作経営、畑作経営等の労働力、経営農地、栽培技術、農産物価格等に関するデータを元にして、農業所得の最大化を実現する各作物の作付面積を求めるプログラムです。この章では、BFMのインストール、営農条件と経営指標等のデータ入力、営農計画案の作成などの操作手順を説明します。

### 1) インストール

BFMのプログラムは、インターネットで、次のWebページからダウンロードできます。

<http://39you.net/xlp/bfm.html>

ダウンロードしたファイル“bfm\_200.exe”を任意のフォルダーに保存します。ここでは、デスクトップに保存するとします。このファイルにBFM関連のファイルが一括して収納されています。このファイルをダブルクリックすると、フォルダー“BFM\_200”が作成され、その中にBFM関連の全ファイルが復元されます。これで、BFMがインストールされました。

### 2) 起動

デスクトップからフォルダーBFM\_200へ移動します。ファイルBFM.xla(注1)をダブルクリックすると、Excelが起動し、続いてBFMが起動して起動メニューが表示されます(図1)。以下、営農計画に採用する作目に関する経営指標データの登録、農業経営を運営する条件・環境に関するデータの入力、営農計画案の作成へと進みます。それらは、起動メニューや図2に表示されているメニューを選んで実行します。

(注1)パソコンの設定によっては、拡張子“.xla”が表示されていないことがあります。



図1 起動メニュー

### 3) BFMのメニューの表示位置

図2には、ほぼ同じ内容のBFMのメニューが3つ、表示されています。

①リボンのタブ「アドイン」に左端に「メニューコマンド」欄があり、[BFM]メニューが設置されています。

②その右に、「ユーザー設定のツールバー」欄があり、[経営指標]、[営農条件]、[営農計画案の作成]、[ヘルプ]の[BFM]サブメニューが設置されています。

③画面の中央には、ワークシートのセルを右クリックすると表示される「右クリックメニュー」(コンテキストメニュー)の上方に[BFM]メニューが設置されています。

①と③の[BFM]メニューをクリックすると、②の[BFM]サブメニューが表れます。

以上の、いずれかの[BFM]メニュー、または起動メニューからメニューを選びます。

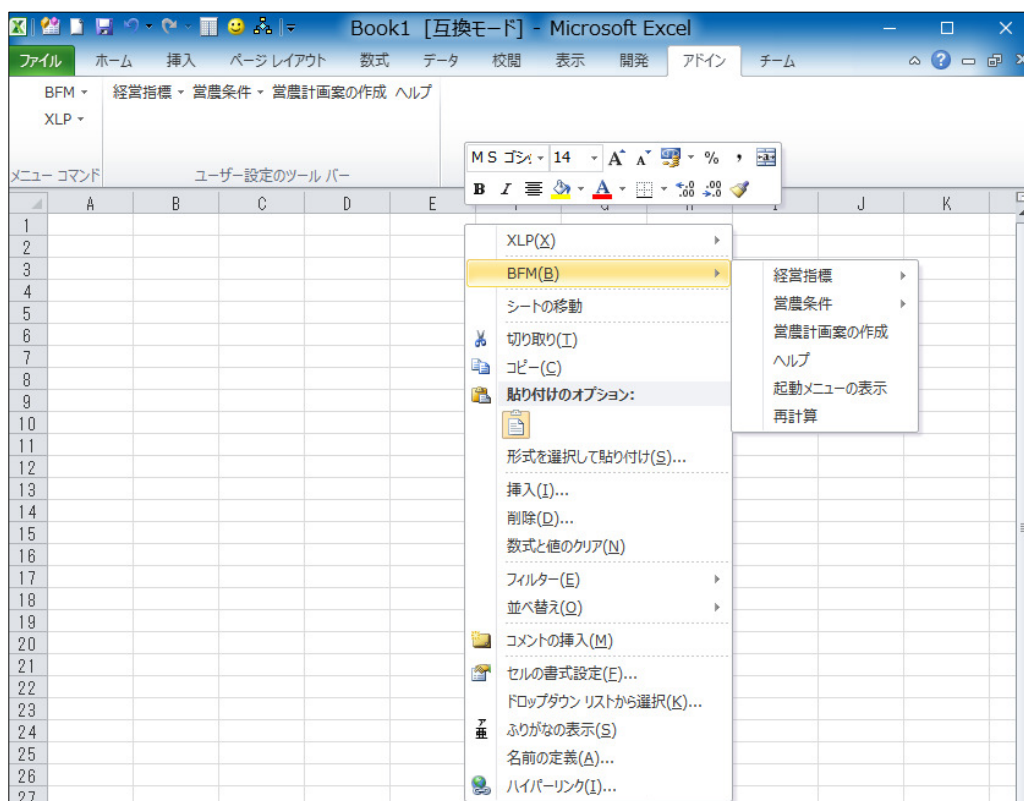


図2 メニューの表示箇所

#### 4) 経営指標の登録と編集

まず、営農計画に採用する作目に関する経営指標データを入力します。これには、経営耕地10a当たりの収量、販売単価、費目別経営費用、時期別作業労働時間等のデータが必要となります。

[BFM]サブメニューの[経営指標]-[新規登録]をクリックすると、指標編集シートが表示されます(図3)。このシートで、1つの作目に関する全てのデータを入力します。画面のリボンのタブ「アドイン」には指標編集メニューが表示されます。[追加]、[前の指標]、[次の指標]、[コピー]、[削除]、[閉じる]などです。これらのメニューを利用して、経営指標データを作成したり、修正したり、追加したりします。

全ての作目のデータ入力が終わったら、メニュー[閉じる]をクリックします。すると、図4の経営指標シートが表示されます。1行に1つの作目の全データが表示されています。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	[E]	経営指標の概要											
2		No. 1											
3		地域											
4		作目											
5		作型・品種など 同名の「作目」がすでに登録されている場合、それと区別するため、この欄は必ず入力します。											
6		10aあたり粗収益 (円、kg)											
7		10aあたり作業労働時間 (時間)											
8		土地利用											
9		単位収量											
10		単価											
11		その他の収益											
12		合計 0											
13		10aあたり変動費 (円)											
14		種苗費											
15		肥料費											
16		農業衛生費											
17		光熱動力費											
18		その他の諸材料費											
19		土地改良・水利費											
20		賃借料・料金											
21		荷造運賃手数料											
22		その他の費用											
23		合計 0											
24		比例利益 (利益係数) 0											
25		1月上旬											
26		1月中旬											
27		1月下旬											
28		2月上旬											
29		2月中旬											
30		2月下旬											
31		3月上旬											
32		3月中旬											
33		3月下旬											
34		4月上旬											
35		4月中旬											
36		4月下旬											
37		5月上旬											
38		5月中旬											
39		5月下旬											
40		6月上旬											
41		6月中旬											
42		6月下旬											
43		7月上旬											
44		7月中旬											
45		7月下旬											
46		8月上旬											
47		8月中旬											
48		8月下旬											
49		9月上旬											
50		9月中旬											
51		9月下旬											
52		10月上旬											
53		10月中旬											
54		10月下旬											
55		11月上旬											
56		11月中旬											
57		11月下旬											
58		12月上旬											
59		12月中旬											
60		12月下旬											
61		作付地目											
62		主食用米											
63		圃場利用/始											
64		圃場利用/終											
65		作付下限											
66		作付上限											

図3 指標編集シート

	A	B	C	D	E	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	Y
1	[M]																	
2		No.	地域	作目	作型	単位収量	単価	粗収益	種苗費	肥料費	農業衛生費	光熱動力費	その他の諸材料費	土地改良・水利費	賃借料・料金	荷造運賃手数料	その他の費用	変動費
3	<input type="checkbox"/>	1	つくば	水稻	水田、小規模(2~3ha規模)	496	270	133920	2720	3000	4024	4933		30000		1700	2750	49127
4	<input type="checkbox"/>	2	つくば	小麦	水田、ドリル播・0.5~1.0ha規模	450	162	72900	2028	8206	2381	1669				11160		25444
5	<input type="checkbox"/>	3	つくば	大豆	水田、転作	240	237	56880	948	5610	4070	4204	833	800		2149		18614
6	<input type="checkbox"/>	4	つくば	メロン	水田、転作、半促成無加温	2902	433	1256566	40360	52320	23700	21578	119300			229420	1364	488042
7	<input type="checkbox"/>	5	つくば	大豆	畑	240	237	56880	948	5610	4070	4204	833	800		2149		18614
8	<input type="checkbox"/>	6	つくば	メロン	畑、半促成無加温	2902	433	1256566	40360	52320	23700	21578	119300			229420	1364	488042
9																		
10																		

図4 経営指標シート

なお、手元に経営指標のデータがない場合や、単に営農計画案の作成を試したい場合には、[BFM]サブメニュー[経営指標]-[開く]でBFMが提供しているデータを利用できます。

### 5) 営農条件の入力

続いて、営農条件・環境に関するデータを入力します。起動メニューなら4つ目のボタンをクリックします。すると、営農条件シートが表示されます(図5)。営農計画を策定する農業経営で想定される経営耕地、労働力、借地利用、雇用利用、借地料、1日の労働時間、雇用賃金等について入力します。

営農条件シートへの入力が終わると、営農計画案の作成へ進みます。

	A	B	D	E	F	H	I	J	L	M	N	P
1	[FC] 営農条件											
2												
3			人数	労働時間	年間賃金	労働日数・雇用日数						
4		常時従事者	2.0人	1日8時間	-	「常従」欄 常時従事者の旬当たり労働可能日数						
5		1) 家族・構成員	2.0人	-	-	「臨雇」欄 臨時雇用の旬当たり雇用上限日数						
6		2) 常時雇用	0.0人	-	1人3,600千円							
7						常従	臨雇		常従	臨雇		
8			賃金(日)	労働時間	-	1月上	10.0日	15.0日	7月上	10.0日	15.0日	
9		臨時雇用	6.0千円	1日8時間	-	中	10.0日	15.0日	中	10.0日	15.0日	
10						下	10.0日	15.0日	下	10.0日	15.0日	
11		経営耕地	自作地	借地上限	借地料(10a)	2月上	10.0日	15.0日	8月上	10.0日	15.0日	
12		1) 田	2.0ha	0.0ha	25千円	中	10.0日	15.0日	中	10.0日	15.0日	
13		2) 畑	2.0ha	0.0ha	20千円	下	10.0日	15.0日	下	10.0日	15.0日	
14		3) 牧草地	0.0ha	0.0ha	20千円	3月上	10.0日	15.0日	9月上	10.0日	15.0日	
15		4) 樹園地	0.0ha	0.0ha	20千円	中	10.0日	15.0日	中	10.0日	15.0日	
16		5) ハウス等	0.0ha	0.0ha	30千円	下	10.0日	15.0日	下	10.0日	15.0日	
17		6) 土地	0.0ha	0.0ha	20千円	4月上	10.0日	15.0日	10月上	10.0日	15.0日	
18						中	10.0日	15.0日	中	10.0日	15.0日	
19		臨時雇用の利用	しない									
20		借地の利用	しない									
21						5月上	10.0日	15.0日	11月上	10.0日	15.0日	
22		米の生産調整	なし									
23		転作率	0%									
24						中	10.0日	15.0日	中	10.0日	15.0日	
25		固定費	0千円									
26		1) 機械償却費										
27		2) 建物償却費										
28		3) その他										
29						6月上	10.0日	15.0日	12月上	10.0日	15.0日	
30						中	10.0日	15.0日	中	10.0日	15.0日	
31						下	10.0日	15.0日	下	10.0日	15.0日	

図5 営農条件シート

### 6) 営農計画案の作成

以上で、営農計画案を作成する準備が整いました。経営指標シートの経営指標が記述されている行の左端(A列)にチェックボックスがあります。このボックスにチェックを入れると、チェックされた行の作目が営農計画案に採用されることとなります。ここでは、6つの全ての作目にチェックを入れます。メニュー[営農計画案の作成]をクリックすると、営農計画案シートが作成され、営農計画案の表と図が表示されます(図6、図7)。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	【営農計画案】	この表は、営農条件と経営指標のデータを使って求めた最適計画案です。										
2	シート複写	臨時雇用に関しては、利用しないと設定されて計算されました。										
3	シート保護	クリーム色のセルの数値(収益や費用)を変更した計画案を試算できます。										
4		(この欄は、修正・書き込みができますので、メモなどにご利用ください)										
5												
6			経営全体	水稲 水田、 小規模(2 ~3ha規 模)	小麦 水田、 フリル播・ 0.5~1.0ha 規模	大豆 水 田、転作	メロン 水 田、転作、 半促成無加 温	大豆 畑	メロン 畑、 半促成無加 温		借地面積 雇用日数	借地料 雇用単価
7		作付面積	50.0									
8		田(単位:10a)	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	-	-	0.0	35千円	
9		畑(単位:10a)	10.0	-	-	-	-	3.1	6.9	0.0	30千円	
15		単位収量(kg/10a当り)		496kg	450kg	240kg	2,902kg	240kg	2,902kg			
16		単価(円/kg)		270円	162円	237円	433円	237円	433円			
17		その他の収益(千円/10a当り)		0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
18		租収益合計(千円/10a当り)		134千円	73千円	57千円	1,257千円	57千円	1,257千円			
19		種苗費(千円/10a当り)		3千円	2千円	1千円	40千円	1千円	40千円			
20		肥料費(〃)		3千円	8千円	6千円	52千円	6千円	52千円			
21		農業衛生費(〃)		4千円	2千円	4千円	24千円	4千円	24千円			
22		光熱動力費(〃)		5千円	2千円	4千円	22千円	4千円	22千円			
23		その他の諸材料費(〃)		0千円	0千円	1千円	119千円	1千円	119千円			
24		土地改良・水利費(〃)		30千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
25		賃借料・料金(〃)		0千円	0千円	1千円	0千円	1千円	0千円			
26		荷造運賃手数料(〃)		2千円	11千円	2千円	229千円	2千円	229千円			
27		その他の費用(〃)		3千円	0千円	0千円	1千円	0千円	1千円			
28		変動費合計(〃)		49千円	25千円	19千円	488千円	19千円	488千円			
29		利益係数(10a当り)		85千円	47千円	38千円	769千円	38千円	769千円			
30		比例利益(千円)		1,696千円	949千円	0千円	0千円	120千円	5,270千円			
31		固定費(償却費等)(千円)	4,139千円									
32		借地料(千円)	0千円									
33		常時雇用労働費(千円)	0									
34		臨時雇用労働費(千円)	0千円							0.0日	9千円	
35		農業所得(千円)	3,896千円									

図6 営農計画案シート(画面の上方)

図6では、田4haに水稲(2ha)、小麦(2ha)を作付けし、畑1haに大豆(0.3ha)、メロン(0.7ha)が作付されて、390万円の農業所得が得られるという営農計画案が示されています。上4行のB列からG列は「メモ欄」として、営農計画案に関するコメントを記入する

ことができます。

図7では、上の図で作目別の作付面積と比例利益が示され、下の図では折線グラフで家族労働等の常時従事者の制約時間が示され、棒グラフで旬別作目別労働時間が示されています。

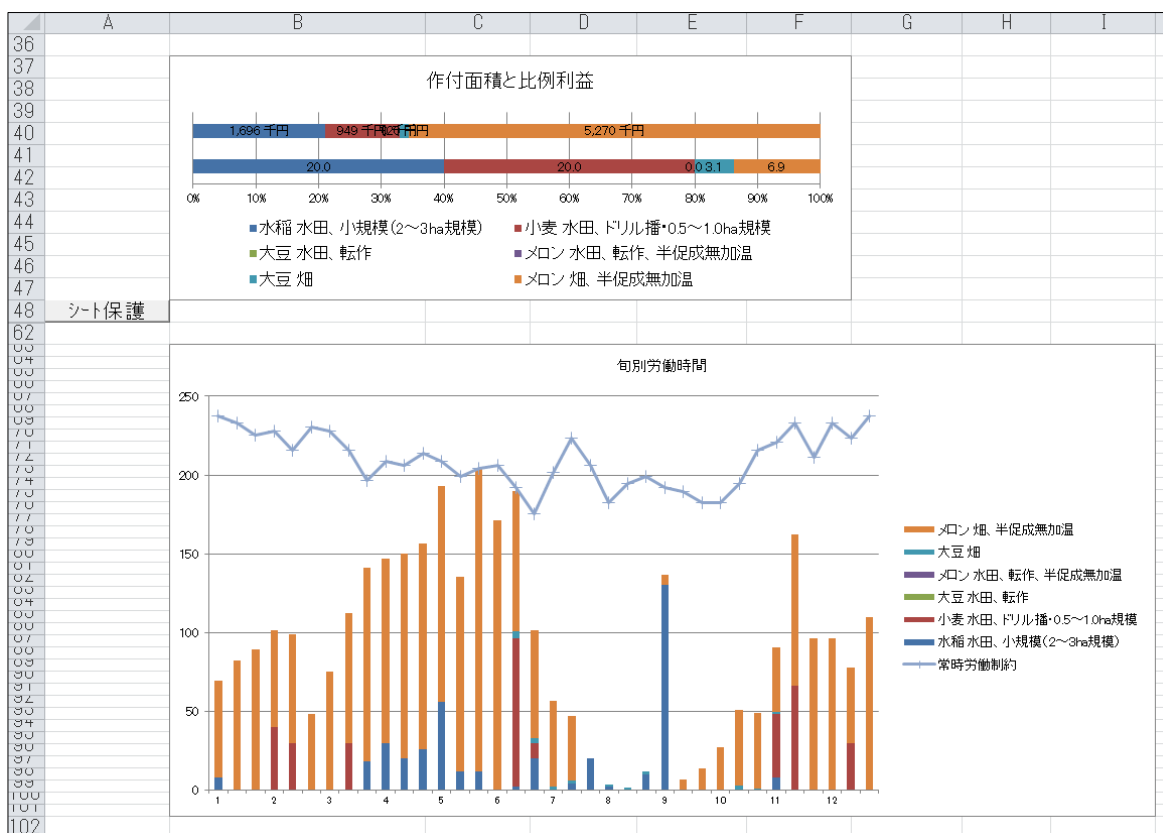


図7 営農計画案シート（画面の半ば）

### 7) 営農条件を変更した営農計画案

図6は3人の家族労働力で自作地を経営する場合の最適計画案ですが、労力不足から経営耕地が余り農業所得は390万円にすぎません。経営資源を増やすと所得増加がどの程度あるかを検討してみます。図7の労働時間のグラフから2つの時期で労働が使い切られているのが読み取れますが、労力不足を解決するために、雇用を導入する改善策を検討してみます。営農条件シート(図5)で「雇用利用」を「する」に、「雇用上限」を「20」にして、1旬に最大20人日の臨時雇用が可能と設定します。メニュー[営農計画案の作成]をクリックして営農計画案を計算すると、結果が営農計画案シート(図8)に表示されます。この計画案では、臨時労働力を追加投入して経営耕地を有効利用する結果となり、労働集約的なメロンが田でも作付けされるほど大幅に増加します。農業所得は、390万円から290万円増の683万円になります。

一方、高齢化で農作業が困難になった農家が耕地の利用・管理を依頼するケースが増えていますが、そのような依頼に応えるとしたらどうなるかを、借地を利用した営農計画案で検討してみます。雇用の利用の場合と同様に、営農条件シートで「借地利用」を「する」に、「田」の「借地上限」を「2」にして、「畑」の「借地上限」を「1」にして、田2haと畑1haまで借地可能と設定します。これで、メニュー[最適計画]-[最適計画

案の計算]を選択して、営農計画案を求めます(図9)。この営農計画案では、雇用を利用する営農計画案(図8)に比べて、より多くの経営耕地(借地)が利用できるため、土地利用型の水稲と小麦が増加して、メロンは微減します。農業所得の増加は、雇用を導入した営農計画案から、さらに120万円増の809万円になります。現状の経営では、借地よりも雇用の導入が経営成果に及ぼす影響が大きいといえます。

なお、営農計画案シートはメニュー[営農計画案の作成]を実行すると上書きされますから、作成した営農計画案を残しておきたい場合は、画面のセル[A2]のボタン「シート複写」をクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	コピーです	雇用の導入										
2	シート複写											
3	保護解除											
4												
5												
6			経営全体	水稲 水田、 小規模(2~ 3ha規模)	小麦 水田、ド リル播・0.5~ 1.0ha規模	大豆 水田、 転作	メロン 水田、 転作、半促成 無加温	大豆 畑	メロン 畑、半 促成無加温		借地面積 雇用日数	借地利 雇用単価
7		作付面積	50.0									
8		田(単位:10a)	40.0	18.2	20.0	0.0	1.8	-	-		0.0	35 千円
9		畑(単位:10a)	10.0	-	-	-	-	0.0	10.0		0.0	30 千円
15		単位収量(kg/10a当り)		496 kg	450 kg	240 kg	2,902 kg	240 kg	2,902 kg			
16		単価(円/kg)		270 円	162 円	237 円	433 円	237 円	433 円			
17		その他の収益(千円/10a当り)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円			
18		粗収益 合計(千円/10a当り)		134 千円	73 千円	57 千円	1,257 千円	57 千円	1,257 千円			
19		種苗費(千円/10a当り)		3 千円	2 千円	1 千円	40 千円	1 千円	40 千円			
20		肥料費(%)		3 千円	8 千円	6 千円	52 千円	6 千円	52 千円			
21		農業衛生費(%)		4 千円	2 千円	4 千円	24 千円	4 千円	24 千円			
22		光熱動力費(%)		5 千円	2 千円	4 千円	22 千円	4 千円	22 千円			
23		その他の諸材料費(%)		0 千円	0 千円	1 千円	119 千円	1 千円	119 千円			
24		土地改良・水利費(%)		30 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円			
25		賃借料・料金(%)		0 千円	0 千円	1 千円	0 千円	1 千円	0 千円			
26		荷造運賃手数料(%)		2 千円	11 千円	2 千円	229 千円	2 千円	229 千円			
27		その他の費用(%)		3 千円	0 千円	0 千円	1 千円	0 千円	1 千円			
28		変動費 合計(%)		49 千円	25 千円	19 千円	488 千円	19 千円	488 千円			
29		利益係数(10a当り)		85 千円	47 千円	38 千円	769 千円	38 千円	769 千円			
30		比例利益(千円)	11,528 千円	1,547 千円	949 千円	0 千円	1,346 千円	0 千円	7,685 千円			
31		固定費(償却費等)(千円)	4,139 千円									
32		借地利(千円)	0 千円									
33		常時雇用労働費(千円)	0									
34		臨時雇用労働費(千円)	561 千円								62.3 日	9 千円
35		農業所得(千円)	6,828 千円									

図8 営農計画案(雇用の導入)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	コピーです	雇用と借地の導入										
2	シート複写											
3	保護解除											
4												
5												
6			経営全体	水稲 水田、 小規模(2~ 3ha規模)	小麦 水田、ド リル播・0.5~ 1.0ha規模	大豆 水田、 転作	メロン 水田、 転作、半促成 無加温	大豆 畑	メロン 畑、半 促成無加温		借地面積 雇用日数	借地利 雇用単価
7		作付面積	91.7									
8		田(単位:10a)	80.5	44.3	36.2	0.0	0.0	-	-		24.3	35 千円
9		畑(単位:10a)	11.2	-	-	-	-	0.0	11.2		1.2	30 千円
15		単位収量(kg/10a当り)		496 kg	450 kg	240 kg	2,902 kg	240 kg	2,902 kg			
16		単価(円/kg)		270 円	162 円	237 円	433 円	237 円	433 円			
17		その他の収益(千円/10a当り)		0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円			
18		粗収益 合計(千円/10a当り)		134 千円	73 千円	57 千円	1,257 千円	57 千円	1,257 千円			
19		種苗費(千円/10a当り)		3 千円	2 千円	1 千円	40 千円	1 千円	40 千円			
20		肥料費(%)		3 千円	8 千円	6 千円	52 千円	6 千円	52 千円			
21		農業衛生費(%)		4 千円	2 千円	4 千円	24 千円	4 千円	24 千円			
22		光熱動力費(%)		5 千円	2 千円	4 千円	22 千円	4 千円	22 千円			
23		その他の諸材料費(%)		0 千円	0 千円	1 千円	119 千円	1 千円	119 千円			
24		土地改良・水利費(%)		30 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円			
25		賃借料・料金(%)		0 千円	0 千円	1 千円	0 千円	1 千円	0 千円			
26		荷造運賃手数料(%)		2 千円	11 千円	2 千円	229 千円	2 千円	229 千円			
27		その他の費用(%)		3 千円	0 千円	0 千円	1 千円	0 千円	1 千円			
28		変動費 合計(%)		49 千円	25 千円	19 千円	488 千円	19 千円	488 千円			
29		利益係数(10a当り)		85 千円	47 千円	38 千円	769 千円	38 千円	769 千円			
30		比例利益(千円)	14,079 千円	3,759 千円	1,717 千円	0 千円	0 千円	0 千円	8,802 千円			
31		固定費(償却費等)(千円)	4,139 千円									
32		借地利(千円)	888 千円									
33		常時雇用労働費(千円)	0									
34		臨時雇用労働費(千円)	963 千円								107.0 日	9 千円
35		農業所得(千円)	8,089 千円									

図9 営農計画案(雇用と借地の導入)

### 8) 営農計画案の試算

以上のように、現状の営農条件を前提とした営農計画案、経営耕地や労働力の条件が変化したときの営農計画案を容易に作成できます。また、図6~9の営農計画案の黄色

のセルを修正して、作付面積、収量、販売価格等を変更した営農計画案を試算することができます。この場合も、営農計画案シートをコピーしてから試算を始めれば、試算前の営農計画案を残しておくことができます。

#### 9) 入力データと計算結果の保存

営農条件や経営指標のデータや、計算した営農計画案シートは、一括してExcelのファイルメニューで保存することができます。また、営農条件と経営指標のデータは、それぞれ個別に保存できます。メニュー[経営指標]と[営農条件]にはサブメニュー[上書き保存]と[名前を付けて保存]のメニューがありますので、前に保存したデータを更新したり、修正したデータを新しいファイルに保存したりできます。

#### 10) 保存データの利用

営農条件や経営指標のデータや、計算した営農計画案シートを一括して保存したデータはExcelのメニューを利用して読み込むことができます。また、営農条件と経営指標を個別に保存したファイルは、メニュー[経営指標]と[営農条件]のサブメニュー[開く]を使って読み込むことができます。



## 2. メニューの詳細

第1章では、BFMを使って、現状の経営条件を前提とした営農計画案、経営耕地や労働力の条件が変化したときの営農計画案を作成する手順を説明しました。BFMを活用して、新しい栽培方法や新しい作物を導入した場合を想定して、経営指標を登録・修正し最適計画案の計算や試算計画を実行することによって、新技術や新規作物の導入による経営成果を算出して、それらの経済性を評価することができます。

この章では、第1章で説明したメニューを含め、BFMの全メニューについて説明します。メニューは画面の色々な個所に表示されます(図2)。Excel(2007)でメニューの表示体系が一変しましたが、このマニュアルでは主にExcel(2010)の表示体系に即して述べます。なお、Excel(2003)までの表示体系については、付録にあります。

### (1) メニュー表示の種類

①起動メニュー：BFMがインストールされているフォルダーのファイル“BFM.xla”をダブルクリックすると、Excelの起動に続いてBFMが起動して、画面の中心にBFMの起動メニューが表示されます。ここでは、BFMを初めて使う方へのメッセージとメニューが並んでいます。以下、**起動メニュー**とといいます。

②リボン[アドイン]の[メニューコマンド]欄の[BFM]メニュー：BFMが起動すると、リボン[アドイン]の[メニューコマンド]欄にメニュー[BFM]が設置されます。以下、**リボンのメニュー[BFM]**とといいます

③リボン[アドイン]の[ツールバー]欄の[BFM]メニュー：BFMが起動すると、リボン[アドイン]の[ユーザー設定のツールバー]欄にメニュー[BFM]のサブメニューである[経営指標]、[営農条件]等が表示されます。以下、**リボンの[BFM]サブメニュー**とといいます。

④右クリックメニュー(コンテキストメニュー)：BFMが起動し、1つ以上のワークブックが開かれているときに、ワークシート上でマウスを右クリックすると、ショートカットメニューが表示されますが、その先頭に[BFM]メニューが設置されています。以下、**右クリックメニュー[BFM]**とといいます。

なお、以上の4つの[BFM]メニューを特定する必要がない場合は、単に**[BFM]メニュー**とといいます。

⑤**指標編集メニュー**：リボンの「ユーザー設定のツールバー」欄に、経営指標データを編集する指標編集シートの画面になったときに、指標編集メニュー[追加]、[前の指標]、[次の指標]、[コピー]、[削除]、[閉じる]などが表示されます。

### (2) 起動メニュー

図1を参照してください。[メニューボタン]の横に説明があります。

なお、[初めてご利用の方はお読み下さい]をクリックすると、BFMの利用手順の概要が紹介されます。

### (3) リボンの[BFM]メニューと右クリックメニュー[BFM]

メニューバー及びショートカットメニューは、全シートで同じメニューが表示されます。これら2つのメニューのサブメニューは、8番目の[再計算]を除き共通しています。

#### ① [経営指標]は、次のサブメニューで構成されます。

- [新規ブック] 新たにワークブックが作成され、2行目に経営指標の項目が記述されたワークシートが作成されます。
- [新規シート] 作業中のワークブックに、2行目に経営指標の項目が記述されたワークシートが、新たに作成されます。ワークブックがない場合は、ワークブックを作成します。
- [新規登録] メニュー[新規シート]を実行して、さらに後述のメニュー[編集]を実行して、指標編集シートを開いて、経営指標の登録場面になります。
- [開く] 後述のメニュー[保存]で作成された経営指標ファイルを読み込みます。次の点にご注意ください。経営指標シートから実行する場合は、すでに経営指標シートに経営指標データがあると、それに追加されます。一方、経営指標シート以外のシートから実行する場合は、すでに経営指標シートに経営指標データがあると、それらが削除されてから、新規に読み込まれます。
- [編集] 経営指標シートのデータを追加したり、修正したり、削除したりするときに利用します。実行すると、指標編集シートの画面になります。経営指標シートがない場合は、メニュー[新規登録]と同じ機能です。
- [編集(選択作目のみ)] 営農計画モデルに使う経営指標には、そのA列にあるチェックボックスにチェックを入れますが、チェックされた経営指標だけを指標編集シートで編集したいときに、実行します。
- [上書き保存] 経営指標シートに記述されている経営指標を、拡張子がbfmのテキストファイルに保存します。
- [名前を付けて保存] 経営指標シートに記述されている経営指標を、拡張子がbfmのテキストファイルに保存します。

#### ② [営農条件]は、次のサブメニューで構成されます。

- [新規] 新たに、既定値が入力された営農条件シートが作成されます。
- [開く] メニュー[新規]が実行され、さらに後述のメニュー[保存]で保存された営農条件ファイルを読み込みます。
- [上書き保存] 営農条件シートに記入されているデータを、拡張子がbfcのテキストファイルに保存します。
- [名前を付けて保存] 営農条件シートに記入されているデータを、拡張子がbfcのテキストファイルに保存します。
- [臨時雇用の設定条件の変更] 営農条件シートの「労働日数・雇用日数」欄の「臨雇」欄の数値が意味する内容を「臨時雇用できる上限日数」あるいは「必ず臨時雇用する日数」へ交互に変更します。

#### ③ [営農計画案の作成] このメニューは、営農条件シートに記述されている営農条件のもとで、経営指標シートでチェックされている作目を導入する営農計画モデルを

線形計画法に基づいて作成し、営農計画案を計算します。計算結果は、詳細が営農計画案シートに記述されます。

- ⑥ [ヘルプ] このメニューで表示される内容は、[起動メニュー]-[初めてご利用の方はお読み下さい]と同じ内容で、BFMの利用手順の概要が表示されます。
- ⑦ [起動メニューの表示] このメニューは、リボンの[BFM]メニューにはありませんが、起動時に表示される[起動メニュー]を表示するメニューです。
- ⑧ [再計算] このメニューは、線形計画モデルを作成したことがあるユーザーのための、メニューです。BFMが作成した営農計画モデルを任意の制約条件を追加して修正し、営農計画案を作成することができます。詳細は、付録「営農計画モデルをユーザー自身で修正して営農計画案を求める方法」を参照してください。

#### (4) リボンの[BFM]サブメニューの内容

① 経営概況シート、経営指標シート及び営農条件シートが表示されている場合は、前項のリボンの[BFM]メニューあるいは右クリックメニュー[BFM]とほぼ同様のサブメニューが表示されます。

② 指標編集シートでは、次の指標編集メニューが表示されます。

[追加] 新しい通し番号が付いた新しい指標を追加します。

[前の指標] 表示されている指標より1つ(前の)通し番号の小さい指標を表示します。

[次の指標] 表示されている指標より1つ通し番号の大きい(次の)指標を表示します。

[コピー] 表示されている指標をコピーして、その後ろに挿入します。

[作期前進] 表示されている指標の作業時期のデータを1旬前に移動します。

[作期遅延] 表示されている指標の作業時期のデータを1旬後ろへ移動します。

[閉じる] 指標編集シートを閉じて、経営指標シートへ移動します。

[確定] 表示されている指標のデータで経営指標シートに登録されているデータを更新します。

[削除] 表示されている指標を削除して、それ以降の指標の通し番号を前へずらします。

[縮小] 表示されている文字やセルなどを小さくします。

[拡大] 表示されている文字やセルなどを大きくします。

[ヘルプ] 以上の指標編集シートのサイドメニューに関する説明文を表示します。

[土地係数の表示/非表示] 土地係数を表示して、既定値の1を変更できます。自分の経営耕地を利用しない(土地係数が0の)農作業の受託等や、1以外の土地係数になる畜産関連の作目の経営指標を登録する場合に利用します。

#### (5) 右クリックメニューで[BFM]以外のメニューの内容

① [シートの移動] [BFM]メニューのすぐ下に表示されています。非表示のシートを含むシートの一覧が表示され、選んだシートへ移動します。

### 3. 利用上の留意点

#### 1) 圃場利用期間(在圃期間)の指標

耕起から収穫・調製までの作物生産で圃場を利用している期間を記入します。指標としては、「圃場利用/始」欄と「圃場利用/終」欄に、月と旬を記入します(図15の指標編集シートのL列とM列の13~14行目)。月が記入されていない場合は、「圃場利用/始」は1月、「圃場利用/終」は12月とみなされます。また、旬が記入されていない場合には、「圃場利用/始」は上旬、「圃場利用/終」は下旬とみなされて、営農計画案が作成されます。圃場利用期間が全く記入されていないと、1月上旬から12月下旬まで圃場を利用するものとみなされ、二毛作などが不可能になるなどによって、適切に処理されないことがあります。

#### 2) 米の生産調整に関わる指標

作物が作付される地目が「田」の場合に記入する指標です。自分の経営耕地(自作地及び借地)に作付する主食用米の場合に、「主食用米」欄(図3の指標編集シートのL列12行目)を「該当する」とします。それ以外の場合は「該当しない」にします。例えば、水田に夏作物として大豆、冬作物として小麦を作付する場合、2作物の双方に転作助成金が交付されるわけではありませんが、大豆の経営指標でも小麦の経営指標でも、この欄を「該当しない」とします。このようにしないと、大豆や小麦等の転作作物が稲作とみなされてしまい、生産調整に適切に対応した営農計画案が作成されません。

また、受託で主食用米の作業を請け負っているときは、主食用米でも「該当しない」になりますので、ご注意ください。これは、転作率を計算する際に受託面積は除外されるからです。

#### 3) 助成金等の経営指標の入力

前項で「主食用米」欄を「該当しない」とした作物で、実際に転作助成金(所得補償交付金)を申請する作物については、助成金の額を「その他収益」欄に記入します(図3の指標編集シートのC列13行目)。

転作助成金以外の助成金・交付金等に関しても、同様とします。

#### 4) 営農条件シートの転作関連項目の修正

稲作の生産調整に協力して、助成金を受け取る場合には、営農条件シートも修正します。「米の生産調整」欄(図5のD列22行目)を「あり」にして、すぐ下の「転作率」欄に比率(%)を記入します。

#### 5) 営農計画モデルをユーザー自身で修正して営農計画案を求める方法

この方法は、線形計画モデルの作成経験があるユーザー向けの説明です。

右クリックメニューの[BFM]メニューの下に[シートの移動]メニューがあり、クリックすると作業中のExcelブックのシート一覧が表示されます。そこ

で、「単体表. \$\$\$」または「モデル. \$\$\$」を選び、表示される単体表または数式モデルの末尾に制約式を追加します。たとえば、2番目の作目の面積を1番目の作目の半分にするなら、数式「 $X2 = 0.5X1$ 」を入力します。この制約式が追加された営農計画案の作成は、リボンのアドインまたは右クリックメニューの [BFM] に表示されている [再計算] を選ぶと実行されます。

## 4. 付録

### 1) Excel (2003) までのメニューの表示位置

#### (1) メニューバー、サイドバー、右クリックメニュー

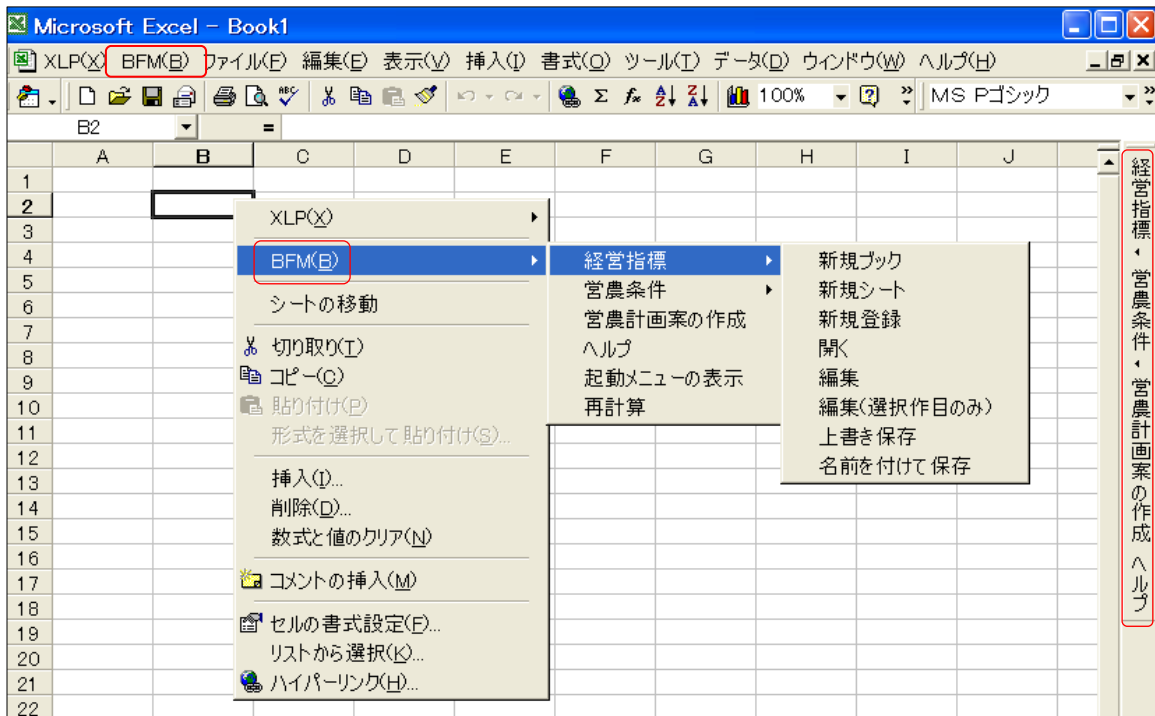


図10 メニューの表示箇所

Excel (2007) 以降ではBFMのメニューは、次の3つの位置に表示されますが、

- ①リボンのタブ「アドイン」の左端に「メニューコマンド」欄があり、[BFM]メニューが設置される。
- ②その右に、「ユーザー設定のツールバー」欄があり、[経営指標]、[営農条件]、[営農計画案の作成]、[ヘルプ]の[BFM]サブメニューが設置される。
- ③画面の中央には、ワークシートのセルを右クリックすると表示される「右クリックメニュー」の上方に[BFM]メニューが設置される。

Excel (2003) までは、メニューバー、サイドバー、右クリックメニューに表示されていましたが(図10の赤枠)。右クリックメニューによるメニューの選択操作については、Excelのバージョンによる違いはありません。